



IFCS2017 について

日本分類学会会長 今泉忠(多摩大学)

日本分類学会運営委員会において、IFCS2017 大会開催に立候補することについて審議頂き、承認されました。日本が IFCS 大会を開催国になったのは IFCS-96 大会ですが、IFCS Council で承認されれば 21 年ぶりの開催となります。

IFCS-96 大会は、“データの科学”をテーマとして、林知己夫名誉教授(統計数理研究所, 元日本分類学会会長)が大会組織委員長を、大隅昇名誉教授(統計数理研究所)が実行委員会委員長を務められ、実行委員会の皆様の多大なご努力や国内外の研究者の参加、多くの企業や団体からの多大なご賛同もあり大成功であったとの記憶があります。これらの詳細については日本分類学会会報 No.19, 20 合併号に詳しく述べられております。大会成功のための実行委員会など関係者の多大なご尽力に改めて敬服いたします。

また、IFCS-98 はイタリア・ローマで開催されましたが、IFCS2015 大会はイタリア・ボローニャで開催されますので、何か巡り合わせのようなものも感じます。

IFCS-96 大会のテーマであった“データの科学”は、現在ではさらに重要なテーマとなっており、日本開催としての大会のテーマについて早急に決めなければなりません。また、IFCS-96 当時の IFCS 参加学会は 10 学会でしたが、現在は 13 学会と増しております。

このようなことを踏まえて、組織委員会構成、実行委員会構成、開催場所・日時、立候補書類の作成などについても日本分類学会として決定していきたいと考えております。IFCS2017 大会を成功させるためにも、様々なことがらについて会員皆様からのご協力を頂きたい、よろしくお願い申し上げます。

大会・セミナー・シンポジウム関連報告

○ 大会・セミナー開催報告

日本分類学会第 32 回大会開催報告

大会実行委員長 中山厚徳(首都大学東京大学院)

日本分類学会第 32 回大会は、2014 年 3 月 1 日(土)～2 日(日)に首都大学東京秋葉原サテライトキャン

<目次>

・巻頭言「IFCS2017 について」	1
・学会大会・セミナー・シンポジウム関連報告	
大会・セミナー開催報告	1
分類学会シンポジウム開催報告	2
大会開催案内	3
・IFCS 関連報告	
IFCS 関係	3
ECDA2014 参加報告(その 1)	3
ECDA2014 参加報告(その 2)	4
・学会賞について	5
・広報活動について	5
・学会議事録等	6
平成 25 年度総会議事録	
運営委員会記録	11
・事務局から	12

パスにて開催されました。大会初日の 3 月 1 日には実社会に役立つ統計学やデータ分析を普及すべく多摩大学の豊田裕貴先生(企画担当幹事)に企画いただき「ビジネスのためのデータマッピング」というテーマでデータ分析セミナーが開催されました。30 名を超える方にご参加いただき、3 人の講師にご講演いただき研究者、大学院生、実務者など幅広い参加者と熱心な議論が行われました。その盛り上がりから当該テーマに対する関心の高さを感じました。2 日の大会においては 12 件の講演が行われ、30 名超の参加者により初日のデータ分析セミナーに引き続き活発な議論が行われました。大会・データ分析にご参加いただきました皆様、運営にご尽力いただきました関係者の皆様に衷心より感謝を申し上げます。

データ分析セミナーの内容および講師と、大会における各セッションの講演は以下の通りです。

データ分析セミナー「ビジネスのためのデータマッピング」

(1) ポジショニング把握のためのデータマッピング～散布図を活用してビジネスデータを分析する～

講師：豊田裕貴(多摩大学)

- (2) ビジネスデータマッピングに MDS を活用する 1
～MDS 入門：基本的な仕組みと使い方～
講師：横山 暁（帝京大学）
- (3) ビジネスデータマッピングに MDS を活用する 2
～MDS 活用：ビジネスへの応用可能性を考える～
講師：鶴見裕之（横浜国立大学）

大会

セッション 1 座長：竹内光悦（実践女子大学）

- ・可変順序マトリックスによる分割表の分析
大津起夫（大学入試センター）
- ・同一素点における項目反応理論の能力推定値の違い
橋本貴充（大学入試センター）
- ・尺度混在データの主成分に基づく項目選択
森裕一（岡山理科大学）、黒田正博（岡山理科大学）、
飯塚誠也（岡山大学）、榊原道夫（岡山理科大学）
- ・生態学的プロセスに基づいた領域の分割について
小田牧子（防衛医科大学校）、Saija Koljonen（フィン
ランド国立環境研究所）、石岡文生（岡山大学）、
Petteri Alho（トゥルク大学）、水藤寛（岡山大学）、
Timo Huttula（フィンランド国立環境研究所）、栗
原考次（岡山大学）

セッション 2 座長：鶴見裕之（横浜国立大学大学院）

- ・F-measure を誤差関数とした潜在クラス 2 項ロジッ
トモデル
土田潤（同志社大学大学院）、宿久 洋（同志社大学）
- ・生存時間データに対する適応的ステップ関数回帰モ
デル
下川敏雄（山梨大学大学院）
- ・思潮の形成とメディアの影響について
津田高治（多摩大学大学院）
- ・状態空間表現を用いた文章解析
馬場康維（統計数理研究所）、小森理（統計数理研究
所）

セッション 3 座長：林篤弘（九州大学）

- ・プロ野球打者の特徴による分類
八木圭太（東海大学大学院）、山本義郎（東海大学）
- ・経年変化を考慮したブランド管理のための製品マッ
プ
齊藤俊則（文京学院大学・(株)マクロミル）
- ・口腔関連製品設計支援のための分析法の一提案
大竹延幸（(株)マーケティング・サービス）
- ・「おけ化調査」が浮き彫りにする心の深層構造—「ア
ジア太平洋国際価値観調査（APVS）」から—
吉野諒三（統計数理研究所）、朴堯星（統計数理研究
所）

○ 分類学会シンポジウム

2014 年度統計関連学会連合大会 企画セッション「日
本分類学会シンポジウム —主成分分析の拡張と新展
開—」について

足立浩平（大阪大学）

2014 年 9 月 13 日（土）～16 日（火）に東京大学本
郷キャンパスで開催された 2014 年度統計関連学会連
合大会において、日本分類学会シンポジウム「データ
分析の理論と応用」を企画セッションとして開催され
た。企画セッション開催の趣旨、日時、オーガナイザ
ー、指定討論者および演題・講演者は以下の通りです。

開催の趣旨：主成分分析（PCA）は、古典的かつ
time-honored な多変量データ行列の次元縮約法であ
るが、ここ約 50 年の間に、PCA を種々の方向に向け
て拡張・修正した諸方法が考案されてきた。それらの
方向には、変数が明瞭に分類されて解釈しやすい主成
分を導くように PCA を修正すること、カテゴリーカル
な非計量データも解析対象とすること、多層配列やシ
ンボリックなデータを考慮して拡張することなど、枚
挙にいとまがない。そして、ビッグ・データ時代を迎
えた今、データに内在する把握不可能な大量情報を少
数次元に縮約すべく、PCA の新たな展開に大きな期待
が寄せられよう。こうした状況の中で、PCA の新展開
の現状を例示することが、本セッションのねらいであ
る。なお、このセッションには、PCA の推測統計学の
発展を含み得なかったことを付記する。

日時：9 月 14 日（日）15:30～17:30

オーガナイザー：足立浩平（大阪大学）

指定討論者：馬場康維（統計数理研究所）

演題・講演者：

- ・心理測定における主成分分析の使用と主クラスター
成分分析
村上隆（中京大学）
- ・非計量主成分分析における交互最小二乗法とその加
速化
黒田正博（岡山理科大学）、森裕一（岡山理科大学）、
飯塚誠也（岡山大学）、榊原道夫（岡山理科大学）
- ・三相主成分分析の階層関係と新展開
足立浩平（大阪大学）、中村裕子（大阪大学）、池本
大樹（大阪大学）
- ・シンボリックデータ解析および関数データ解析にお
ける次元縮小 — ビッグデータ時代の次元縮小 —
水田正弘（北海道大学）

○ 大会開催案内

日本分類学会第33回大会開催について

大会実行委員長 横山暁(帝京大学)

日本分類学会第33回大会を、2015年3月2日(月)～3日(火)に帝京大学霞ヶ関キャンパスにて開催いたします。帝京大学と言えば板橋に病院と医療系学部が、八王子に文系学部があることをご存知の方も多いかと存じます。霞ヶ関キャンパスは、永田町駅から徒歩1分の平河町森ビルの9階にあり、現在は東京都の大学等委託訓練講座が行われている他、事務室には帝京大学自己点検・評価推進室が置かれています。東京の真ん中で開催されますので、地方の方を含め、多くの会員の皆様のご参加並びにご講演をお待ちしております。講演申込等のスケジュールは、確定し次第、日本分類学会のウェブページ <http://bunrui.jp>にてお知らせいたします。本大会が有意義な会となるよう実行委員一同最善を尽くし、皆様をお待ちしております。大会についてのお問い合わせは、大会事務局(横山暁)までお願い致します。

日本分類学会第33回大会事務局

〒192-0395 東京都八王子市大塚 359

帝京大学経済学部経営学科 横山暁

連絡先: satoru@main.teikyo-u.ac.jp

IFCS 関連報告

○ IFCS 関係

日本分類学会会長 今泉忠(多摩大学)

先に会員の皆様にはお知らせしましたように、IFCS Councilにて、本学会会員の岡太彬訓氏が次期IFCS会長に選出されました。これにより、現在、日本分類学会会員としては4名の方がIFCSにおいて委員などを務めておられます。研究の一層のグローバル化や、日本分類学会の特徴である国内外の学会との連携を目指し、会員へのIFCS関連情報や国内外の学会開催の情報提供を積極的に進めたいと考えております。

会員の皆様に関連があると思われる国外の連携学会の大会のうち、現在決定しているものとして以下のようなものがありますので、ぜひ、ご参加頂ければと存じます。

- IFCS2015, Bologna (6-8 July 2015)
- ECDA2015 (39th annual meeting of GfKI), Colchester, UK (2-4 September 2015)
- Data Science conference/workshop organized by the European Association for Data Science in Luxembourg (May or June 2015)

○ ECDA2014 参加報告 (その1)

南弘征 (北海道大学)

ECDA (European Conference on Data Analysis)としては第2回となる表題の国際会議が、7月2日～4日の3日間にわたって、ドイツ ブレーメンの Jacobs Universityにて開催されました。日本からの参加者は文字通り数えるほど(後述)でした。大半が本学会の役員格の諸先生であられ、現地で standing session が急遽開催されたかどうか承知しておりませんが、過去に原稿を書いていないフレッシュ?な会員として、当方が報告を仰せつかりました。今回の依頼に先立ち、経緯を調べようとしたものの、原典に辿りつけなかったのですが、ECDAは、本学会と交流の深いドイツ分類学会(GfKI)の年会が欧州諸関連学会との共催として拡大されたものと理解しています。冒頭に記載したとおり、第1回は2013年にルクセンブルグで開催されました。今回のConferenceは、GfKIの第38回年会としての開催であるほか、Italian Statistical Society Classification and Data Analysis Group (SIS-Cladag, イタリア), Vereniging voor Ordinaties en Classificatie (VOC, オランダ), Sekcja Klasyfikacji i Analizy Danych PTS (SKAD, ポーランド) および the International Association for Statistical Computing (IASC)の共催とされています。参加者は27か国から190名で、以下の8テーマに関して、合計155件の発表がありました。ちなみに、欧州以外の参加者については、オーストラリア(1)、カナダ(2)、中華人民共和国(1)、イスラエル(1)、日本(9)、ロシア(1)、チュニジア(1)、トルコ(1)、アメリカ(2)、南アフリカ(2)のようでした。

- Statistics and Data Analysis
- Machine Learning and Knowledge Discovery
- Data Analysis in Marketing
- Data Analysis in Finance and Economics
- Data Analysis in Medicine and the Life Sciences
- Data Analysis in the Social, Behavioural, and Health Care Sciences
- Data Analysis in Interdisciplinary Domains
- Classification and Subject Indexing in Library and Information Science (LIS 2014).

このほか、以下の10件の招待講演(plenary or semi-plenary speech)がありました。

- Themis Palpanas, Université Paris-Descartes, Do It Yourself: Exploratory Analysis of Very Large Scientific Data
- Rebecca Nugent, Carnegie-Mellon University, Solving the Identity Crisis: Large-Scale Clustering with Distributions of Distances and Applications in

Record Linkage

- Zhi-Hua Zhou, Nanjing University, Learning with Big Data by Incremental Optimization of Performance Measures

- Roberta Siciliano, University Federico II, Naples, The Speed-Interpretability-Accuracy Trade-Off in Decision Tree Learning

- Adam Sagan, University of Economy Cracow, Latent Variables and Marketing Theory -- the Paradigm Shift

- Pedro Pereira Rodrigues, University of Porto, How uncertainty simultaneously drives and hinders knowledge discovery from health data

- Alfred Inselberg, Tel Aviv University, Visualization and Data Mining for High-Dimensional Data

- Joaquin Vanschoren, Eindhoven University of Technology, OpenML: Open science in machine learning

- Andreas Geyer-Schulz, KIT, On a Decision Maker without Preference

- Friedhelm Schwenker, University of Ulm, Partially supervised learning algorithms in classification and clustering.

プログラム等の詳細は、本稿作成時点で学会のウェブページ (<http://ecda2014.eu>) が稼働しており、そちらで詳細やアブストラクトを確認頂けると思います。

ブレーメンは、会員のみなさまにとっても私にとっても「音楽隊」をイメージする地名であろうかと思えます。街としてはあまり大きくなく、1日あれば多くのスポットを網羅できます。幸いにして、旅程の都合上、学会前日の午後早くに着いたので、旧市街中心部にあると聞く音楽隊のオブジェを探しましたが、見逃しそうな場所にあり、実際に素通りしてしまいました。

学会会場である Jacobs University までは、市の中央駅から鉄道で15分ほどのところにあり、かなりの参加者が電車通勤していたようでした。

学会2日目午後に City Tour として、学会会場から旧市街中心部(つまり宿泊先近く)までバスで移動し、市内ガイドの方から(前述のオブジェも含め)歴史的な建物を中心とした説明を受けたのち、船で市内を流れる川を遡り、Conference Dinner 会場まで移動しました。多くの参加者がビュッフェ形式で提供された食事に舌鼓を打っていたようですが、翌日の出立・移動

に備えて中座させていただきました。

いずれにせよ帰路の手配はなく、初めての場所で最寄りの鉄道駅を探すことになってしまい、スマートフォンの利便性を再確認した次第です。

来年の ECDA は、英国・ドイツ・ポーランドの各分類学会により、University of Essex (Colchester, UK)にて、2015年9月2日～4日に開催とのことです。

○ ECDA2014 参加報告 (その2)

谷岡健資 (同志社大学大学院)

Second European Conference on Data Analysis

(ECDA2014) が2014年7月2日～4日、ドイツのブレーメンにある Jacob University で開催されました。Jacobs University は2001年創設の私立大学であり、ブレーメン中央駅から6駅目の Bremen-Schönebeck 駅を降りてすぐのところに位置しています。ブレーメンは北ドイツに位置し、ブレーメンの音楽隊で有名であることに加えて、ユネスコ世界遺産となっている美しい街です。

1日目は午前9時半より開会式が行われ、coffee break 時はホールに集まり、積極的に意見交換が行われていました。coffee break 時に南京大学の Zhou 先生とお話しさせて頂く機会があり、日本の企業でデータマイニングがどの程度注目を浴びているかに興味を示され、Zhou 先生が機械学習やデータマイニングの日本の研究者の方々と交流があることや研究内容である機械学習の方法である Multi-label learning について普段お聞きすることができない内容を聞くことができ、貴重な機会となりました。午後からは invited session の1つである High-dimensional data: using all dimensions を拝聴させて頂き、最新の高次元データに関するクラスタリング法の理論研究に関する発表を聞くことができました。このセッションの部屋は満席であり、本部の方が椅子を追加するほどの盛況ぶりでした。

2日目はセッションが終わった後、16時30分より Social event が始まり、Bremen 市街を案内され、ベッヒャー通りや市庁舎等が並んでいるマルクト広場等にて様々な説明を聞いた後、参加者は Weser 川を船で移動し、Conference dinner の会場へ向かいました。船上では多摩大学の今泉先生、首都大学東京の中山先生と同席させて頂き、統計教育に関する話など、貴重なお話をお聞きすることができました。



図 1 coffee break での様子



図 2 Boat trip on River Weser

GfKI の annual meeting への参加は今年で3度目であり、毎回クラスタリング法をはじめとするデータ解析法に関する最新の研究発表を拝聴させて頂くことができることに加えて、日本の先生方や他国の研究者の方々と、非常に有意義な時間を過ごすことができることは私のような学生や若手研究者の方にとっても貴重な機会になると考えられます。是非、これからも ECDA に参加していきたいと思います。

学会賞について

日本分類学会会長 今泉忠(多摩大学)

前年度の日本分類学会総会におきまして、日本分類学会学会賞の設立が正式に決定されました。選考委員長の選任に関しては、今回の学会賞選考委員会は学会賞選考内規の制定等も含めた準備委員会の意味合いも持つことから、会長より学会誌編集委員長の岡太彬訓氏を選考委員長とすることが提案され、承認されました。

学会賞の種別としては、以下の3種類として、今年度の総会で表彰を授けます。なお日本分類学会研究発表賞については、日本分類学会大会や国際分類連合(IFCS)など本学会に関係する学会等での発表から選考を行う計画です。

詳細につきまして、会報やウェブページなどでご報

告いたします。

• 日本分類学会貢献賞

データの科学としての分類やそのデータ分析の分野における優れた研究業績により、日本分類学会の活動ひいては分類に関して著しい貢献のあった個人または団体を対象とする。

原則として毎年1個人または1団体とし、総会において表彰を受ける。

• 日本分類学会論文賞

データの科学としての分類やそのデータ分析に関して、本学会誌(「データ分析の理論と応用」または「ADAC(Advances in Data Analysis and Classification)」)に発表された論文のうちから、特に優秀と認められるものを選定する。

原則として毎年1篇とし、総会において対象となる論文の著者に表彰を授ける。

• 日本分類学会研究発表賞

データの科学としての分類やそのデータ分析の分野に関する研究について、日本分類学会大会や国際分類連合(IFCS)など本学会に関係する学会等において発表された報告のうちから、今後の進展が期待され、推薦・奨励の対象にふさわしいと認められるものを選定する。

原則として毎年若干数とし、総会において対象となる発表の著者に表彰を授ける。

広報活動について

横山暁(帝京大学)

このたび日本分類学会では会員へいち早く情報を提供することを目的としてメールニュースを開始いたしました。これは、事務局からの重要なお知らせや学会関連イベントの紹介などを目的とした日本分類学会公式のメールニュースであります。

このメールニュースは、日本分類学会のプライバシーポリシー(<http://bunrui.jp/policy.html>)の「個人情報の利用目的」に基づき、入会申込時などに日本分類学会事務局にお届けいただいているアドレスにお送りさせていただきます。メールニュースの配信を希望されない方や、別のメールアドレスへの送付をご希望の方は、お手数をおかけしますが、office@bunrui.jp宛にその旨メールで連絡ください。

また、会員への情報提供および非会員の方への広報を目的としてFacebookページを開設いたしました。<https://www.facebook.com/bunrui.jp>をご覧ください。Facebookにアカウントをお持ちの方はぜひ「いいね!」をお願いいたします。

学会議事録等

○日本分類学会平成 25 年度総会議事録

開催日時：平成 26 年 3 月 2 日(土) 16:00～17:00

開催場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス（〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 12 階）

出席者：19 名

■ 開会の挨拶

竹内幹事長の挨拶により総会が開会された。

■ 議長の選出

議長として岡山理科大学の森裕一氏が推薦され、承認された。

■ 議題

報告事項

1. 日本分類学会学会賞について

竹内幹事長より日本分類学会学会賞（貢献賞，論文賞，奨励賞）を設立するにあたり，各賞の位置づけについての説明，学会賞内規に基づいた選考過程などについての説明が行われた。

2. 大会の次回開催校について

竹内幹事長より次回 33 回大会を帝京大学の横山 暁氏を大会実行委員長として 3 月初旬に開催する予定であることが報告された。

審議事項

1. IFCS 大会日本開催(2017)について

今泉会長から日分類学会主催として，2017 年の IFCS 大会の開催地として立候補を検討しており，開催時期は 2017 年 8 月初旬を予定している旨の説明があった。また，竹内幹事長より大会の運営は独立採算で行うこと，大会実行委員長を現会長の今泉会長にお願いしたい旨についての説明があった。審議の結果，2017 年の IFCS 大会の開催地として立候補することが承認された。

2. 入会に関する会則等の変更について

竹内幹事長から入会についての審議を現在の幹事会から運営委員会で行うことの提案があった。またこれに伴い，入会に関する会則等の変更が提案され，審議の上，承認された。

3. 平成 25 年度事業報告ならびに決算報告について

平成 25 年度事業報告と平成 25 年度決算報告について，竹内幹事長から説明があり，審議の上，承認された。なお，最終の決算報告書については，会計監事の承認を経て署名・捺印いただいたものを次号会報に掲載する旨の説明があった。

4. 平成 26 年度事業計画ならびに予算計画について

平成 26 年度事業計画と平成 26 年度予算計画について，竹内幹事長から説明があり，審議の上，承認された。

■ 閉会の挨拶

最後に，竹内幹事長から閉会の挨拶が行われ，閉会となった。

日本分類学会 平成 25 年度事業報告

平成 26 年 3 月 2 日

1. 第 32 回大会、データ分析セミナーの開催

第 32 回大会を平成 26 年 3 月 2 日（日）に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスで開催した（大会委員長：中山厚穂氏（首都大学東京）、発表件数 12 件）。データ分析セミナー2013「ビジネスのためのデータマッピング」を平成 26 年 3 月 1 日（土）（第 32 回大会会期中）に、豊田裕貴氏（多摩大学）を中心に開催した。

2. シンポジウムの開催

2013 年シンポジウム「クラスタリング研究の新展開」を平成 25 年 9 月 9 日（月）（統計関連連合大会会期中）に足立浩平氏（大阪大学）を中心に開催した。

3. 第 32 回通常総会の開催

第 32 回通常総会を第 32 回大会開催中の平成 25 年 3 月 2 日（日）に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて開催した。

4. 運営委員会、幹事会の開催

(1) 運営委員会は第 1 回を平成 25 年 5 月 23 日（木）に多摩大学品川キャンパスで、開催した。主に、運営方針、幹事長の選出と幹事会の構成、統計関連学会連合関連、国際学会関連、学会賞選考委員会、フェロー・名誉会員選考委員会の設立、会員関係、その他検討の必要な課題などを検討した。第 2 回を平成 25 年 12 月 14 日（土）に Desk@（品川インターシティフロントビル 3 階）にて開催した。主に、大会、セミナー、学術会議、学会賞、会員関係、その他検討の必要な課題などを検討した。第 3 回を平成 26 年 3 月 2 日（日）に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて開催した。主に、学会賞、次回大会の開催場所、次回セミナー、会員関係、その他検討の必要な課題などを検討した。

(2) 幹事会は各運営委員会時に開催し、そのときの運営委員会の議題等についての調整を行った。また、第 1 回～第 4 回ネット幹事会をそれぞれ電子メールにて実施した。主に、入会審議、その他検討の必要な課題、などを検討した。

5. 会報、ウェブページによる学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に、学会活動の告知および報告を会報（No.32 を平成 25 年 12 月発行）およびウェブページにて発信した。

6. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行、ADAC（欧文ジャーナル）の発行協力

和文誌「データ分析の理論と応用」の第 3 巻第 1 号の発行を行った。そして、特集「クラスタ分析の新展開」を企画（担当編集委員：宮本定明氏（筑波大学））し、投稿を募集した。また ADAC への発行協力および投稿支援を行った。さらに、Special Issue on Analysis of Asymmetric Relationships を企画した。

7. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合理事会への協力、理事会への参加、プログラム委員会、運営委員会への参加、2013 年度統計関連学会連合大会の共催を行った。
- (2) 国際分類学会(IFCS)への協力、分担金の支払いを行った。
- (3) IFCS 傘下学会への協力を行った。
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った。

8. 学術会議への登録検討

本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体として登録することについて、必要な書類等を確認し、申請準備を行った。

9. 学会資料の電子化および保管

本学会の雑誌を JST が公開しているデータベースへの登録を行った。また本学会の資料を J-Stage 等の団体での電子媒体での公開を踏まえ調整を行うこと、電子化に伴い、紙媒体の資料の整理を行い、しかるべき場所での保管することについては継続審議とした。

平成 25 年度決算
平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	決算	増減	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	16,000	6,000	2,000 円 × 3 人
2 会費収入	476,000	469,000	△ 7,000	納入率 98%
正会員	430,000	380,000	△ 50,000	5,000 円 × 73 人 (49%) (前年度以前支払も含めた実質納入率: 98%)
シニア会員	6,000	6,000	0	3,000 円 × 2 人 (納入率: 100%)
学生会員	10,000	10,000	0	2,000 円 × 4 人 (87%) (前年度以前支払も含めた実質納入率: 83%)
賛助会員	30,000	30,000	0	30,000 円 × 1 口 (納入率: 50%)
前年度以前分	0	35,000	35,000	
前受金	0	8,000	8,000	
3 論文誌関係収入	100,000	294,000	194,000	
論文誌売上	0	0	0	
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	100,000	180,000	80,000	論文誌 Vol. 3 の広告収入 (内1社は50,000円未払い)
別冊代金	0	42,000	42,000	
論文誌関係雑収入	-	72,000	72,000	新機 ページャーヅ (内1名は18,000円次年度支払予定)
4 雑収入	0	235,074	235,074	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	0	135,000	135,000	正会員 × 6、学生会員 × 2、非会員 × 13、非会員学生 × 8
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	63	63	銀行口座利子
その他	0	100,011	100,011	第32回大会補助費返還および寄付 (広告代)
5 繰入金収入	0	20,750	20,750	
積立より繰入	0	20,750	20,750	IFCS会費積立より繰入
A 当期収入合計	586,000	1,034,824	448,824	
B 前期繰越収支差引	1,164,446	1,116,342	△ 48,104	
C 収入合計 (A+B)	1,750,446	2,151,166	400,720	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	350,000	578,428	△ 228,428	
和文誌 (Vol.3)	350,000	536,428	△ 186,428	送料を含む
その他	0	42,000	△ 42,000	
2 事業費	110,000	85,000	25,000	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	シンポジウムは運営大会のときに実施
セミナー運営補助費	0	30,000	△ 30,000	講師 (会員) 謝礼10,000 × 3
広報費	50,000	0	50,000	
学会賞経費	10,000	0	10,000	
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	0	0	0	
その他	0	5,000	△ 5,000	正会員1名二重払い (12月12日に郵便局振込) のため3月1日大会にて返金
3 学会運営会費	40,000	13,185	26,815	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	40,000	13,185	26,815	会費弁当代
その他	0	0	0	
4 事務費	127,500	116,331	11,169	
業務委託費	50,000	50,420	△ 420	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費 (交通費含む)	0	0	0	
事務用品・消耗品費	22,000	31,681	△ 9,681	
ADAC 事務連絡費	2,000	0	2,000	
ウェブ運営管理費	3,500	3,130	370	ドメイン更新料
会報印刷費	45,000	30,600	14,400	会報 No.32
印刷費	5,000	500	4,500	幹事会配布資料印刷費
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	50,000	73,720	△ 23,720	
会報等送料	40,000	21,260	18,740	
会費請求等連絡通信費	5,000	17,860	△ 12,860	会費請求に関する資料等の送付
その他	5,000	34,600	△ 29,600	幹事会へのメール便、学会での送付物等
6 負担金	44,210	69,214	△ 25,004	
IFCS	24,000	49,004	△ 25,004	200 ドル × 2 年分 (2013 年度・2014 年度分) および海外送金等経費
統計関連学会連合	20,210	20,210	0	2013 年分および振込手数料
7 積立	25,000	25,000	0	
特別事業のための積立	10,000	10,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	15,000	15,000	0	
IFCS負担金のための積立	-	0	0	新機
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	747,710	960,878	△ 213,168	
E 前期繰越収支差引 (A-D)	△ 161,710	73,946	△ 235,656	
F 次期繰越収支差引 (C-D)	1,002,736	1,190,288	△ 187,552	
G 支出合計 (D+F)	1,750,446	2,151,166	△ 400,720	

日本分類学会会則第 10 条に基づき、平成 25 年 4 月 1 日より平成 26 年 3 月 31 日までの会計経理を監査した結果、
決算報告書の通り相違ないことを認めます。

平成 26 年 8 月 1 日
会計監事

栗 例 算 男 印

会計監事

吉 野 隼 三 印

(実際の決算報告書には両監事の直筆の署名と押印あり)

日本分類学会 平成 26 年度事業計画

平成 26 年 3 月 2 日

1. 第 33 回大会、セミナー、2014 年シンポジウムの開催

第 33 回大会を平成 27 年 3 月に帝京大学（東京、大会委員長：横山暁氏（帝京大学））で開催する。また、大会会期中にセミナーを開催する。2014 年シンポジウムを平成 26 年 9 月（統計関連連合大会会期中、オーガナイザ：足立浩平氏（大阪大学））に開催する。

2. 第 33 回通常総会の開催

第 33 回通常総会を第 33 回大会開催中の平成 27 年 3 月に帝京大学（東京）にて開催する。

3. 運営委員会、幹事会の開催

(1) 運営委員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する

下記事項を検討課題とする。

- ・他学会大会・シンポジウムへの協賛、統計関連学会連合への対応
- ・総会の議題
- ・その他検討の必要な課題

(2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

4. 会報、ウェブサーブおよびメールニュースによる学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に、学会活動の告知および報告を会報（No.33 を平成 26 年 6 月発行）およびウェブページにて発信する。加えて、速報性のある情報についてはメールニュース（仮称）や Facebook などを活用し、適宜会員への情報提供を行うことを目指し、その環境整備を行う。

5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行、ADAC（欧文ジャーナル）の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第 4 巻第 1 号（特集「データ分析の理論と応用」、担当編集委員：宮本定明氏（筑波大学））の発行を行う。また ADAC への発行協力および投稿支援を行う。

6. 学会賞の授与とフェロー制度設立に向けての準備

学会賞の授与とフェロー制度設立に向けての準備を進める。

7. 次期役員選挙

次期役員選挙を行う。

8. 他学会との交流と協力

(1) 統計関連学会連合理事会への協力、理事会への参加、プログラム委員会、運営委員会への参加、

2014 年度統計関連学会連合大会の共催

(2) 国際分類学会(IFCS)への協力、分担金の負担

IFCS2017 日本開催に向けての検討

(3) IFCS 傘下学会への協力

(4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛

9. 学術会議への登録検討

本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体として登録することについて検討を行う。

10. 学会資料の電子化および保管

本学会の資料の電子化に伴い、紙媒体の資料の整理を行い、しかるべき場所での保管を検討する。

平成 26 年度予算
平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	10,000	10,000	0	2,000 円×5 人として算出
2 会費収入	491,000	476,000	15,000	
正会員	445,000	430,000	15,000	5,000 円×(148 人×0.80489 人)として算出
シニア会員	6,000	6,000	0	3,000 円×(3 人×0.8742 人)として算出
学生会員	10,000	10,000	0	2,000 円×(7 人×0.7145 人)として算出
賛助会員	30,000	30,000	0	30,000 円×1 口として算出
前年度以前分	0	0	0	
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	168,000	100,000	68,000	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	150,000	100,000	50,000	論文誌 Vol.4 の広告収入。実績より算出
別刷代金	0	0	0	
論文誌関係雑収入	18,000	-	0	新機(ページチャージ)前年度未払い分、雑誌編集費(T&X 化)
4 雑収入	240,000	0	240,000	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	240,000	0	240,000	実績より算出
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	30,000	0	30,000	
増立より繰入	30,000	0	30,000	選挙経費のための増立より繰入
A 当期収入合計	939,000	586,000	353,000	
B 前期繰越収支差額	1,123,928	1,164,446	△ 40,518	
C 収 入 合 計 (A+B)	2,062,928	1,750,446	312,482	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	500,000	350,000	△ 150,000	
和文誌 (Vol.4)	500,000	350,000	△ 150,000	送料を含む
論文誌関係雑支出	0	0	0	No. 4 の雑誌編集費(T&X 化)
その他	0	0	0	
2 事業費	200,000	110,000	△ 90,000	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	シンポジウムは連合大会のときに実施
セミナー運営補助費	80,000	0	△ 80,000	年2回で、印刷謝礼・資料等
広報費	30,000	50,000	20,000	学会パンフレット作成費
学会賞経費	10,000	10,000	0	
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	30,000	0	△ 30,000	
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	30,000	40,000	10,000	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	30,000	40,000	10,000	実績より算出
その他	0	0	0	
4 事務費	105,920	127,500	21,580	
業務委託費	50,420	50,000	△ 420	統計情報研究開発センターへの事務業務委託費
人件費(交通費含む)	0	0	0	
事務用品・消耗品費	10,000	22,000	12,000	実績より算出
ADAC 事務連絡費	2,000	2,000	0	該当者のみ発送。購読費は会費に上乗せ。実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	実績より算出
会報印刷費	35,000	45,000	10,000	会報 No.33。実績より算出
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	35,000	50,000	15,000	
会報等送料	25,000	40,000	15,000	会報 No.33。学会からのお知らせ。実績より算出
会費請求等連絡通信費	5,000	5,000	0	会費請求に関する資料等の送付。実績より算出
その他	5,000	5,000	0	他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	20,210	44,210	24,000	
IFCS	0	24,000	24,000	今年度支払なし
統計関連学会連合	20,210	20,210	0	2014 年分。振込手数料を含む
7 積立	45,000	25,000	△ 20,000	
特別事業のための積立	5,000	10,000	5,000	原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	15,000	15,000	0	選挙にかかる実費から算出
IFCS負担金のための積立	25,000	-	0	新機、次年度 IFCS 負担金支払いのための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	837,130	747,710	△ 189,420	
E 当期収支差額 (A-D)	1,870	△ 161,710	△ 163,580	
F 次期繰越収支差額 (C-E)	1,125,758	1,002,736	△ 123,022	
G 支 出 合 計 (D+F)	2,062,928	1,750,446	△ 312,482	

○ 運営委員会記録

- ・日本分類学会平成 25 年度第 1 回運営委員会

日時：平成 25 年 5 月 23 日（木），18:00～20:00

場所：多摩大学品川キャンパス（品川インターシティフロントビル 5F）

出席者：今泉忠（会長，多摩大学），大津起夫（大学入試センター），岡太彬訓（多摩大学），佐藤美佳（筑波大学），竹内光悦（実践女子大学），馬場康維（統計数理研究所），林文（元東洋英和女学院大学）

※会長以外五十音順，敬称略

■開会の挨拶

開会に先立ち今泉新会長より，統計教育大学間連携ネットワークの経過状況について，資料に基づき，説明があった。残部については 3 月の大会等で配布するとの報告があった。今泉会長から開会の挨拶があり，今泉会長を，議長として下記議題について審議した。

議題

1. 運営方針について

議長から配布資料（資料 1：平成 25 年度事業計画，資料 2：平成 25 年度予算）に基づき，平成 25 年度事業計画の説明が行われた。会の活動として，セミナーなどの主催，連合大会中のシンポジウム以外のイベント開催，他学会との協働と差別化，そのための行動基準案の作成等について説明があった。これらのことを受け，3 月の大会開催日程を早めに決めた方がよいなどの意見があった。

2. 幹事長の選出について

会則に従い，運営委員会から推薦および会長の推薦をもとめ，竹内光悦運営委員を幹事長とすることが提案された。審議の結果，承認された。

3. 幹事会の構成について

議長から新幹事会の構成案が資料 3(2)として配布され，昨年度までの組織では負担の偏り等が起きていることや学術団体への登録などの事業計画の紹介もあり，担当や人数を増やし，適任者を割り当てた組織づくりをしていくことなどの説明があった。審議の結果，原則原案通り，承認され，今後該当者に依頼することとなった。なお，幹事会構成メンバーについては幹事だけでなく，IFCS 関係，統計学会連合関係の本学会選出者も含めることとした。

4. 統計関連学会連合から

議長から配布資料に基づき，統計関連学会連合からの連絡事項（会計報告や新理事長など）の報告があった。また審議依頼があった（A）連合大会でのコンペティションの審査員について，（B）連合の理事会での倫理規定の制定について紹介された。A については今泉会長，竹内新幹事長間で検討し，選出することとなった。B については連合の理事会での倫理規定の制定について，今泉会長から経緯等を含め，紹介がなされた。審議の結果，「行動基準」などの表現や資料の内容について様々な意見があがり，現時点では結論を決めかねるため，継続審議とした。

5. 国際学会関連

議長から現在連携をしている国際学会の IFCS，日独，日伊，日韓の連携強化について紹介があった。日独について，主催国の交渉等も含め，検討することとなった。日伊については日本での開催を踏まえ，検討することとなった。IFCS についても情報交換がなされた。

6. その他

(1) 学会賞選考委員会，フェロー・名誉会員選考委員会の設立について

議長から学会賞選考委員会とフェロー選考委員会の設置，また新しい会員種別として名誉会員の設立について提案があった。審議の結果，委員会の設置および事務局は幹事会が担い，岡太編集委員長を第 1 回学会賞選考委員会の委員長，馬場前会長をフェロー選考に関する委員会の委員長として進めることが承認された。なお委員長の任期についてはおよそ 1 年間として，再任は妨げない案がでたが，このことに関しては継続審議とした。学会賞と名誉会員の選考の具体的な内容や過程については今後調整することとした。

(2) 雑誌「統計」について

竹内幹事長から雑誌「統計」の配布について報告があった。また学会員への通知依頼があった。その結果，学会ウェブや会報に配布に関する情報を掲載することとなった。

(3) 入退会について

竹内幹事長から入退会の承認組織の変更について提案があった。審議の結果，入退会の承認組織は共通にすることが望ましくことから，今後，入会に関しては，運営委員会から幹事会へ委任し，事後報告とするとしても承認組織としては，退会の承認組織である運営委員会で行うこととした。これに伴い細則変更を行うこととした。なお，退会の承認組織に

についてはこれまで通り、運営委員会とする。

(4) Facebook の活用について

議長から本学会の活動を一般に広報するために、Facebook の活用提案があった。具体的な内容を踏まえ、今後これらのツールの活用を検討することとなった。

■開会の挨拶

最後に今泉会長の閉会の挨拶により、閉会となった。

事務局から

● 会員情報の変更等について

本年度末に役員改選選挙が予定されております。会員名簿にある住所に投票用紙を送付いたしますので、住所等の変更のある方は事務局までご連絡ください。

● 学会誌への論文投稿について

学会研究報告会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

2011年9月に第1号を、2012年9月に第2号、2013年9月に第3号を発刊いたしました。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のウェブページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society)およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group)と共同で、2007年より Springer 社から刊行しております(年間3冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。

● 会費納入のお願い

本年度も後半になりました。まだ学会会費納入がお済みでない方はお早目にご納入のほど、よろしくお願いいたします。学会は皆様の会費により運営を行って

います。会費納入が滞りますと運営できなくなります。ご注意のほど、よろしくお願いいたします。なお会費滞納が続く場合、学会細則により除名することがあります。

会費納入につきましては、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

● 会員情報の更新および入会案内について

ご所属の変更、送付先の変更希望、会員種別変更など会員情報の更新を希望される方は、末尾の学会問い合わせ先までご連絡ください。

また、会員の皆様の周りで本学会の入会をご希望される方が居ましたら、学会ウェブページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>)をご紹介ください。

■ 編集後記

広報(会報・SNS) 横山暁(帝京大学)

今号に寄稿いただいた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。会報のみならずメールニュースや Facebook 等、さまざまな形で情報発信をしていく予定です。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

(公財)統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp

URL: <http://www.bunrui.jp/>